

# 交流

〈大会発表〉

◆伊藤美重子 敦煌写本「醜女縁起」について 敦煌写本「醜女縁起」は『賢愚経』波斯匿王女金剛品第八を典拠とし、前縁により醜女となった王女が仏の加護により美女に変わるといふ物語で、その鈔本には、P二九四五、P三〇四八、P三五九二、S二一一四、S四五一一の五点ある。うちP三〇四八は首尾完結した鈔本で、他の鈔本と照合すると、異なる表現が多々あり、それが別系統の鈔本であるとされる。本発表ではP・三〇四八と他の鈔本との表現を比較し、両者の語りの違いやその書写目的について考察した。

◆和田英信 永井荷風『下谷叢話』を読む 中国古典文化を受容した地域をかりに漢文文化圏とよぶならば、日本も当然その文化圏の中にあつた。またその圏内における文化の伝播のあり方を川の流れに喩えるならば、中国が上流にあつ

り、日本が下流に位置することはいうまでもあるまい。ここで下流というは、何も卑下するわけではない。下流にはさまざまな水の流入による多様な要素の集積と、なによりも豊かな水量がある。日本における漢文文化の多様で豊かなさまをみるひとつの試みとして、永井荷風『下谷叢話』を読んでみたい。『下谷叢話』には、きわめて多くの人物が登場し、江戸（東京）の地を舞台にさまざまなきごとを繰り広げる。今回は、登場人物、地理、日月をおつのできごとなどを整理し、永井荷風が江戸文化の残照のなかに書き留めようとした漢文文化のあり方の一端を探ってみようと思う。

〈例会発表要旨〉

◆天神裕子 鐘梅音の散文にみられる『家庭主婦』の意象 台湾・1950年代・女性作家。これらのキーワードは、台湾文学史においてさほど注目されてこなかった。理由の一つには、1950年代という時代が、大陸反攻を掲げる国民党によって政府主導の文芸政策が推進され、御用文学が奨励された「文学の不毛

の時代」とみられてきたことにある。もう一つは、この時期の女性作家——主に国民党政府と同時期に大陸から台湾へ渡り、一斉にデビューした女性作家群——の作品が「家庭内の狭い話題にとどまり、政治的意識が薄い」と批評されていたことによる。確かに、これらの作品には家庭や子ども、恋愛など生活に密着したテーマが多いが、むしろそのなかに、大陸時代に五四文化運動の影響を受け、台湾で活躍の場を得た知識人女性の思いを読み取ることができているのではないか。7月例会では、こうした「遷台女性作家」の一人である鐘梅音をとりあげ、その散文に描かれた近代的な家庭概念、新天地台湾で積極的に生きようとする姿勢について分析し報告を行った。

◆杉村安幾子・河村昌子 柴静著『中国メディアの現場は何を伝えようとしているか』翻訳出版を巡って CCTV報道番組「看見」メインキャスターだった柴静氏の著書『看見』（広西師範大学出版社二〇一三）の邦訳、鈴木将久・河村昌子・杉村安幾子訳『中国メディアの

現場は何を伝えようとしているか——女性キャスターの苦悩と挑戦』（平凡社二〇一四）について、本学会会員で訳者の杉村安幾子・河村昌子が発表した。

まず杉村から、著者である柴静氏の略歴および原著『看見』について紹介した。『看見』は中国の二〇一三年のベストセラーランキング第一位であり、中国アマゾンのレビュー数は昨年七月一日時点で一万二千を越える。これは柴静氏が中央電視台の人気キャスターであったことと無論密接な関連があるが、本書に描かれる中国社会に対する冷静かつ鋭い洞察、弱者に注がれる優しく暖かな眼差しが読み手を強く惹き付けていることも事実である。また日本における書評二点（『日経新聞』六月二二日、『週刊読書人』六月二七日）も紹介し、日本で本書がどのように読まれているかについても言及した。

次に河村が出版までの経緯を紹介した。原著の発売後この本を読んだ中国社会科学院の賀照田氏から、訳者の一人鈴木に翻訳の勧めがあり、日本語版出版を

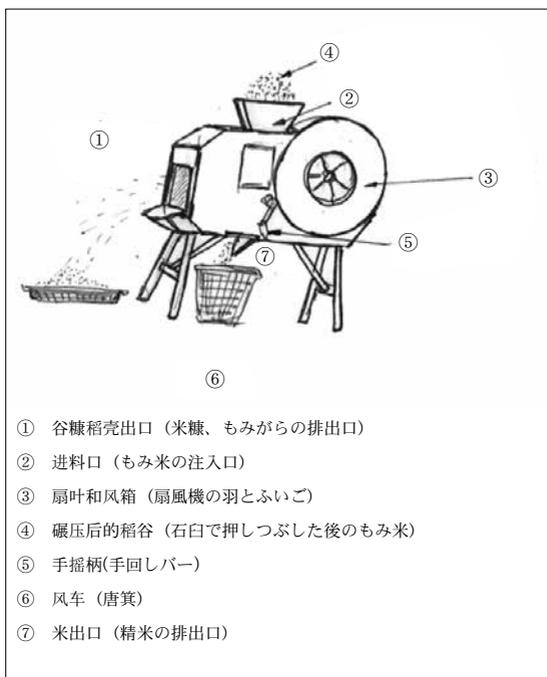
企画することになった。平凡社から好感触を得たため、賀氏と北京の学術書店万聖書園の劉蘇里氏を通じて柴静氏の承諾を得、五月から翻訳に取りかかった。原著は全二十章だが、広く一般の読者に届けられるよう、総頁数を一定範囲に収めることにし、柴静氏の個人的な履歴の章は割愛して、中国の社会問題に関する十二章を訳出した。各章も読みやすい分量に配慮して抄訳した。さらに日本の読者向けに、柴静氏に単独インタビューに応じていただいた。

柴静氏には、ご著書の全てを訳出できない出版事情、邦訳題名、表紙の体裁、帯の文言など全般をご理解いただき、感謝している。中国が抱える問題に真摯に取り組む柴静氏の良心的な著作を、多くの方にお読み頂きたい。

◆趙亜男 宋代における寺院茶会の研究——『禪苑清規』を中心として——宋代の寺院茶会が中国後世の茶礼、日本の寺院茶礼及び茶道の形成に大きな役割を果たした存在としてよく言及される一方、宋代の寺院茶会を中心とした研究がそれ

ほど多くない。その実情を踏まえ、本発表は寺院茶会について多く記述した現存最古の清規である『禪苑清規』を用いて、茶礼の規範化、茶会の流程と室内の構成を整理することを通して、宋代の寺院茶会のあり方と特徴に対する考察を試みた。室内の構成に関して、『勅修百丈清規』にある「十六板首鉢位之図」を参考として当時のありうる模様を探ってみた。また、宋代における寺院茶会が寺院の基本的儀礼作法を基盤として行われていたといえるにもかかわらず、宋代に入ってお茶ならではの儀礼作法がすでに寺院に誕生してさらに茶礼として定着したことが明らかになった。今後の課題として、宋代にとどまらずそれ以降の寺院茶会の発展や伝播に着目していきたい。

◆小島久代 「辺境から訪れる愛の物語」の翻訳について 2014年9月6日例会では、拙訳書『辺境から訪れる愛の物語』（勉誠出版）の翻訳に際し、不明箇所79項目について沈龍朱氏（沈從文の長男）に質問を送り、イラスト付きの回答を得たのを私蔵しておくのはもつ



たいないとの思いもあり具体的に紹介した。すでに松枝茂夫訳のある代表作「辺境の町」(中編)と「夫」、「月下小景」については、既訳を参考にさせていた。たき大変助かったが同時に既訳に縛られず如何に自分らしさを出すかに苦心した。原文と沈龍朱氏の説明、松枝訳、小島訳

を表にして「辺境の町」31例、「月下小景」3例、「虹」2例を紹介した。「辺境の町」10章原文「包工就是七百吊制钱、不管风车、不管家什」の「風車」の松枝訳は「水車」とあるが疑問に思い沈龍朱氏にお尋ねしたところ、「风车不是水车、这里是指除碾坊以外、其他的碾坊设备和工具。风

◆王芸嫫 从逻辑学角度浅析“既然p, 就q”与“如果p, 就q”的异同与相互转换 本文运用预设、焦点等逻辑学概念讨论了现代汉语复句“既然p, 就q”(简称“既然”句)和“如果p, 就q”(简称“如果”句)的异同及相互之间的转换条件。

邢福义(2001)等指出,“既然”句和“如果”句有一定相通之处且存在可以相互转换的现象,例如(1)既然爸爸是“坏蛋”,那么,什么样的人才是好人呢? (2) (3) 甲:他去哪?乙:他不去。甲:哎呀,如果他不去,事情就不好办了!但对于两者的转换条件研究还不充分。

本发表首先提出预设除一般认为的说话者与听话者共知的预设外还存在偏向言者的预设与偏向听者的预设,并通过分析发现“既然”句中的预设偏向于听者预设而“如果”句中的预设偏向于言者预设。另外还发现p↓q这一关系在“既然”句中一定是预设,而在“如果”句中有可能是预设也可能是焦点,并据此对两种复句的转换条件作出分析。

## ◆齋藤明 「テアル」形構文に対応す

る中国語表現

日本語の「動詞＋テア

ル」は一般に中国語の「動詞＋着」や「動

詞＋了」に対応するものだと考えられて

いる。本稿では、テアル構文からそれに

ふさわしい中国語表現を探るとして視点

から考察を行い、「着」や「了」以外に、

動詞のゼロ形式に相当するテアル形を確

認することができた。テアル構文の意味

領域とアスペクト選択には一定の関連性

が存在することを認め、いかなる場合に

「着」が選択されるのか、あるいは「了」

が用いられやすいのかについて分析を進

めた。その結果、テアル構文には動作性

の強弱による段階性が存在すること、動

作主の有無が文全体の動作性に影響を与

えることを確認し、動きの希薄な性質描

写文においては、中国語では動詞のゼロ

形式、動作主が不明確な存在描写文には

「着」、動作主が明確になると、文全体と

しての動作性も高まり「了」のアスペク

ト使用が選択されることがわかった。

◆郝静 “A 一个 B” と “A 一次 B”

における “一个” と “一次” との違いに

ついての一考察 A B が動賓型離合詞で

ある場合 動賓型離合詞 A B に挿入され

る時に、“一个” と “一次” が同時に成

立する動賓型離合詞が存在している。例

えば、“睡 A 一个 / 一次 觉 B”、“见 A 一

个 / 一次 面 B” などがある。本稿では、

“A 一个 B” と “A 一次 B” を含む文全

体の意味を個々考察することにより、

“A 一个 / 一次 B” にある “一个” と “一

次” との違いを明らかにしたい。

結論から先に言えば、“A 一个 B” と

“A 一次 B” との違いは “一个” と “一次”

それぞれ自身の意味と、動賓型離合詞 A

B が文全体においてどのようなニュアン

スで捉えられているのかという二つの点

に大きく関連していることが分かった。

その中、動賓型離合詞 A B が文全体にお

いてどのようなニュアンスで捉えられて

いるのかについては副詞や、主語の特殊

性とも関係していることが分かった。

今回は “一个” “一次” どちらも挿入

可能な場合しか考察できなかったが、

“一个” “一次” どちらも挿入不可の場合

と、一方しか挿入できない場合を今後の

課題にして続けて考えたい。そして、語

料庫を増やし、結果の正確性を高めよう

と思う。

◆朱珊 閉ざされた女性たち——張愛玲

前期研究 本稿では、張愛玲の前期の 22

篇の小説（1943 年—1951 年）を

中心に、登場人物である女性たちに着目

し、張の成長期の経験を踏まえ、作品を

分析した。その結果、筆者は張愛玲に

とって、両親の離婚と元夫の胡蘭成との

結婚生活は彼女の人生において二つの重

要なターニングポイントだと考えた。本

研究では、登場する女性は「狭間に消え

ていった女性たち」、「新生活を求めてい

る女性たち」、「複雑な人間性を持つ女性

たち」の三つのタイプと考え、更に、「複

雑な人間性を持つ女性」について、「人

間性の『悪』を強調する女性たち」、「理

想な女性」、「女性性と性」、「自己満足な愛

の四つのタイプに分けて考察した。以上

の分析に基づき、張愛玲は人間性の複雑

性に対する冷静な考えを持つことと、悪

の人間性に関する認識を明らかにした。

そして、彼女が描いた女性人物の特徴は多種多様で立体的な性格を持つこと、張愛玲は女性人物の不運を通じ、人間性が根本的な原因であることを強調している。更に、金と性に対しての欲望は張愛玲小説のもう一つの主題であることも分かった。

#### ◆迫田博子 詩にみる程頤の世界観

北宋の高名な思想家や儒学者である程頤は、とりたてて著述といえるほどのものがない中で、六十五首の詩を書き残り、己の哲学を詩作にも託した。果たして、程頤は「何」を根本にたてて世界を認識しているのだろうか。本論は、その思想の根幹をなす「天理」、「生生」及び「万物一体の仁」について考察を加えたうえで、「往来」、「志意」、「両忘」、「時光」、「泉石」、「樂命」という六つの光源を手がかりとして、詩の視野からみた程頤の世界観を明らかにする。その詩の多くは豊かな思索を孕み、自然と一体化しながら平穩な情景を歌う。また、随所に哲学のきらめきが揺曳し、平明かつ簡潔な表現で読み手を奥深い境地へといざ

なう。超然としたその思想は、多元的な世界を生きる人間のあり方を示唆する叡智が含まれている。

#### ◆森田さくら 敦煌写本『葉浄能詩』

研究―説話の構造を巡って 唐末五代、道教関係者の手により成立した敦煌写本『葉浄能詩』には、「符」を駆使して難題を解決する一人の道士・葉浄能の姿が描かれている。特に玄宗との月旅行のエピソードは、元代の『天竺遺事諸宮調』や雜劇『唐明皇遊月宮』等に影響を与えたとされる。本稿は『葉浄能詩』の構造を巡り、中国の古典文学が散文から話本、章回小説へとゆるやかに発展していく上で、『葉浄能詩』がどのような役割を担ったのかを考えるものである。本稿では作品を序章部分、十一の説話からなる説話部分、終章部分の三つに分け、さらに説話部分の構造について時系列、繰り返し、話題の規模という三点から考察を行ったところ、説話部分も作品全体の構造と同様に三部構成で、各説話は一方行にしか進めないことが分かった。ここに、聴衆を飽きさせることなく

楽しませようとする作者の思索の跡が見てとれる。また時を経て、『葉浄能詩』は道教の布教という主目的から離れ、人氣演目の一つへと転化していったものと思われる。

#### ◆姚佳利 李清照の人間像について

宋の女流詞人李清照は伝統なものからの逸脱を恐れず、時代と運命に翻弄された中で、年若い頃の羞じらい、新婚後の幸福感、間もなくの別居時の不安、靖康の変・夫の死去による混乱、中年から流浪の生活を送ったこの女性詞人の変転する生涯と鋭い感受性が多くの魅力的な作品を産み出した。その作品は、特に詞には女性の立場から出発し、女性の視点から自分自身に実際に遭遇したことに踏まえて繊細な感情を反映した。しかし、その創作の大胆な描き方を通して、豊かで独特な人間像を示したことは、より一層注目すべきと考えられる。李作品の独特な特徴として挙げられるのは「時代外れの女性」の人間像が描かれたことである。彼女は明らかに同時代の女性たちとは別の次元におり、李作品の読後に残るのは

陰惨な歴史の暗さより心の繊細さと親しみやすさ、また時にはさりげなく冷静な目線だと思われる。それは、宋の時代の理学に挑んだ率直で強靱な女性なのである。

は動詞の意味に転換し、文中で述語になり、時に目的語を導き、動詞の文法機能を持つことを明らかにし、擬声語の動詞化のプロセスについて分析した。

本書を刊行まで導きました。難解な表現を避け、読みやすい文章で書かれている点も教材向きですが、本書のもう一つの特徴はブックガイドも兼ねている点です。各章で紹介されている参考書籍は、基本的に今でも図書館や書店で手に取ることができるものばかりです。それらの本を読むことで、中国の歴史や文化、社会について、より一層理解を深めることができるはずです。

#### ◆ 鄔越凌 中国語擬声語の動詞化について

先行研究を参考にしながら、抽出した例文を分析し、擬声語は、述語となる、などの文法機能を持っているが、実詞とは異なり、程度副詞と否定副詞に修飾されない、実際の概念を持たないため、実詞でも虚詞でもない独立した品詞類であるという結論が出た。

また、動詞の文法的特点を参考にし、例文を分析することを通して、「不」と連用すること・程度副詞と連用できないこと・動態助詞「了」、「着」、「過」をつけられること・動量補語をつけられること・副詞「在」、「正在」で修飾できること・後ろに方向補語、結果補語を付けられること等の動詞の文法特徴は擬声語が動詞化する際の文法特徴と共通していることが分かった。

さらに、選定した例文における擬声語

#### ◆ 杉村安幾子 中国モダンリズム研究会

著『中国現代文化14講 ドラゴン解剖学・登竜門の巻』刊行 昨年十月、研究会の仲間と中国の現代文化に関する教材を刊行しました(関西学院大学出版会、二〇一四年十月)。本書は歴史・言語・文学・演劇・映画・美術・台湾・香港・華人世界・少数民族などからなる全十四章。最終章は「レファレンスのために」として中国関連書籍の購入方法や検索の仕方について、丁寧な解説が施されています。

日中関係が冷え込んで久しく、全国の大学の中国語履修者の減少も、今やすっかり想定内のこととなってしまっています。しかし、若者の反中・嫌中感情は理解不足に基づくことが多く、それを覆すためには中国が「面白く魅力的な国」と知ってもらうのが一番、という熱意が

#### ◆ 舟部淑子 二〇一四年四月一日より

上海で在外研修中です。受け入れ先大学は華東師範大学中国語文学部ですが、なにより現地でないといけない研修を考えると考え、観劇・古典戯曲関連資料の収集を中心に行っています。変化著しい中国のそれも初めて長期滞在する上海で、生活に慣れるまで二、三か月かかりましたが、前半はとにかく時間と

体力の許すかぎり、京劇・昆劇・越劇その他の地方劇等なるべく多くの劇種を観ました。演目の面白さ以外にも、劇種によつて異なる観客の反応や劇場の中で起きる様々なことも興味深く感じます。十月以降は特に昆劇を中心に観ていますが、上海は蘇州・杭州・南京へのアクセスも便利です。昆劇は二〇〇一年にユネスコの無形文化遺産に登録されて以降、各地域の昆劇団による保存・継承活動が活発になり、様々な新しい試みも行われています。最近はインターネットでも何でも検索可能ですが、現地ならではの生の発見もあり、あまり範囲を限定せずに資料収集したいと考えています。雪の南京にて